



美味しい、楽しい、優しい台北

台北国際大会推進コーディネーター 出村 知佳子（札幌北 RC）

台北は、日本から大変近く多くの友人がいる国際大会の舞台です。歴史ある文化、美味しい料理、そして人々の温かさ…そのすべてが、訪れる私たちをやさしく迎え入れてくれます。2026年6月13日から17日まで、台北ドームを中心に開催される「2026年ロータリー国際大会」では、世界中からロータリー会員やロータリーファミリーが集い、友情と奉仕の精神を分かち合い、国際的なつながりを深めます。



主なプログラムは以下の通りです。（すべて台北ドームにて開催）

- 6月14日(日):開会式(午前・午後の2回)
- 6月15日(月):全体会議(午前)
- 6月16日(火):全体会議(午前)
- 6月17日(水):閉会式(午後)

また、RI 理事主催による親善朝食会も予定されています。

- 日時:2026年6月14日(日)7:00 AM
- 会場:圓山大飯店(Grand Hotel Taipei)12階

台北国際大会への登録は【My Rotary】から可能で、登録期間によって参加費が異なります。早めの登録がお得ですので、ぜひこの機会にご予定ください。お一人でも、ご家族やクラブの仲間とでも、台北での貴重な体験を楽しんでいただけることと思います。

なお、2026年台北国際大会の日本地区チームは、以下のメンバーで構成されています。

- 第1地域:岡村睦美(第2770地区・川口 RC)
- 第2地域:吉川公章(第2760地区・名古屋南 RC)
- 第3地域:大橋秀典(第2660地区・東大阪東 RC)

私たち日本チーム一同、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

All Japan で一緒に体験しましょう。

「大会登録はこちらから」

(My Rotary 登録ページ:<https://convention.rotary.org/ja>)





クラブサポートミーティングの目的について

第2地域 行動計画推進リーダー 桑澤 一郎（茅野 RC）

25-26 年度は、国際ロータリー会長が直前で交代するなど波乱の幕開けとなりました。しかし、会長代われど方針変わらず、のメッセージも発信され、印刷物やバナーなどの取り替えが主な変更作業となっていることと思われます。

一方で日本のロータリーは、水野理事の力強い指導の下、継続性や独自の地域計画によって、地域リーダーによる積極的なサポート態勢が整っております。

地区組織や地域組織の役割は「クラブのサポート」であることは皆さん十分ご理解いただいておりますが、この十数年、社会情勢の急速の変化やコロナ禍を経て、人々の価値観も急速に変化する中で、「ロータリーも変わらなければならない！」とわかっているにもかかわらず「どう変われば良いのか」が見いだせておらず、いわば「あがいている」状態でもあるといえます。

世界的に一定の影響力を持つようになったロータリーは、もっともっと世界を良くしよう、という方針を立て、実現のための戦略の第一優先を「数の力」、つまり「会員増強」と位置づけています。

闇雲な会員増強は、ロータリーやその基本であるクラブの根本を変えてしまう危険を含んでいます。ですから、実は慎重に進めなければなりません。一つの解は「衛星クラブ」です。

「エクスクルーシブ(排他的)なクラブからインクルーシブ(包摂的)なクラブへ変革しなさい」といわれても、「メンバーは選ばれたエグゼクティブの集団である」ことに価値を見出している会員も多くいます。「例会出席や寄付は成功と余裕の証であり、そうした仲間との交流がロータリーに属する価値」である会員が多数いることも事実です。そこに若い人、様々な立場の人をいれて「インクルーシブになれ」といわれてもそんなに簡単には変わりません。

インクルーシブなクラブになる一番の方法が衛星クラブの創立です。ローターアクトクラブでも良いでしょう。若く、汗をかく奉仕活動に意欲のある人たちをメンバーとして迎え、彼らを支援し「自分たちにはできない」地域社会の課題に取り組んでもらうことで、地域社会への影響力を向上させ、地域におけるロータリーの新しいブランドを作ることが出来ます。

今年度から「ガバナー主催のクラブサポートミーティング」や地域リーダー主催の「ガバナーサポートミーティング」が定期開催されます。ガバナーや地域リーダーは単に数字を追うだけではなく(しかし数字も大事です!)、是非こうした戦略的手法の提案で、実質的なクラブサポートに繋げていただきたいと思います。ご理解ご協力の程よろしく願いいたします。





第3地域 ポリオ根絶コーディネーター 藤井 秀香（岸和田東 RC）

カルガリーでの国際大会開会式で、ビル・ゲイツ(ゲイツ財団理事長)が「私達は今、岐路に立っています。今後数年間がポリオ根絶のカギとなります。全力を注がなければ、ポリオが無くなったと思っていた国で再発してしまう恐れがあります。根絶を完遂するには、政府、医療従事者そして、ロータリーの皆様の継続な取り組みが不可欠です！」今後三年間パートナーシップを更新し取り組んでくださいます。



去年の末には、感染者数が増えポリオ根絶の「ラストマイル」は、依然として困難な段階です。今年1月、NHK BSで(国際報道 2025 パキスタン根絶間近に見えたポリオ感染急拡大)番組が放映されました。もともと衛生状況が悪いうえ紛争、政治的混乱、気候災害、ハイリスク地域におけるワクチン拒否など、数々の課題による接種率の低下です。随分と長いよね。本当に根絶できるのだろうか？そのような声も聞こえます。尾身茂ポリオ根絶大使は、問題は『根絶されるのか？』ではなく、『いつ根絶されるか！』ということだと仰っています。ゴールは見えていないわけではない。見えております。

2025年4月21日から23日まで、アフガニстанは今年最初の全国的なポリオワクチン接種キャンペーンを実施し、1100万人以上の子供たちに予防接種を行いました。これは隣国のパキスタンでのキャンペーンと同期しました。5月、アフガニстанは2回目の全国キャンペーンを実施し、再びパキスタンと同期しました。この連続した調整は、高い感染シーズンを前に、免疫のギャップを埋め、ウイルスとの戦いを強化するのに役立ちました。

アフガニстанとパキスタンでの4月と5月のキャンペーンは、免疫力を高め、ウイルスのさらなる拡散を防ぐ重要な機会を提供しました。アフガニстанのポリオ根絶プログラムは、すべての子供を守るために適応と革新を続けています。

日本では、95%の子供に母子混合ワクチンを接種しており、年間151億円もかかっています。日本では発症者ゼロですが、根絶しない限り接種は続けなくてはなりません。世界のどこかにポリオウイルスが存在する限り、ほかの国でポリオが再び発生する可能性があり、全世界への感染拡大リスクは無くなりません。ポリオ根絶の取り組みを今ストップしたら、今後10年間に毎年20万人の子どもが身体まひを発症する可能性があります。ポリオプラスへの皆様のコミットメントと寛大な年間寄付は、ポリオの世界的な根絶に具体的な支援を提供し、世界の理解、善意、平和を促進します。

天然痘に次ぐ歴史上2番目の人間の病気を根絶する歴史的な機会は、手の届くところにあります。天然痘がそうであったように、1つの疾病を世界から根絶するのはとてつもなく大きな仕事で、一人でも多くの力が、必要とされています。特定の地域における徹底した定期予防接種、ほかの予防接種活動(キャンペーンなど)の実施、疾病のモニタリングやポリオウイルスを検知するための廃水のサーベイランス(監視)といった活動にも寄付金は使われます。

最近の課題は、米国トランプ政権による予測不能な政策です。ロータリーは、寄付国政府から支援を確保するために、アドボカシーを行ってきました。

ファンドレイジングとは、「与えることの喜び」を人に教える方法です。

ヘンリー・ロッソ（インディアナ大学 Lilly Family）

パキスタンにポリオワクチン投与に参加した折、30 年間のロータリー歴でポリオにさせて頂いた寄付はこの様に使われているのだと感動いたしました。ストーリーテリングとは、物語を使って情報やメッセージを伝える手法のことを指します。ただ単に事実や数字だけを伝えるのではなく、感情を揺さぶるようなポリオ根絶活動や具体的な例（世界ポリオデー、フォトコンテストなど）を伝えることで、相手に印象を与え、共感を得たり行動を促したりする方法で、ファンドレイジング出来ればと考えております。

第 3 地域では全地区ポリオ根絶委員会を設けており、ご寄付や支援するための行事も考えておられます。第 2640 地区の和歌山南 RC は全会員 74 名ポリオプラス・ソサエティ(PPS)に参加くださいました。敬意を表します。国際ロータリー75 周年の年に子供たちへの約束をしたのですからワクチンで予防できる疾病に苦しむ子どもがあってはなりません。国際ロータリーは揺るぐ事なく最優先事項「ポリオ根絶」に立ち向かっていきます。